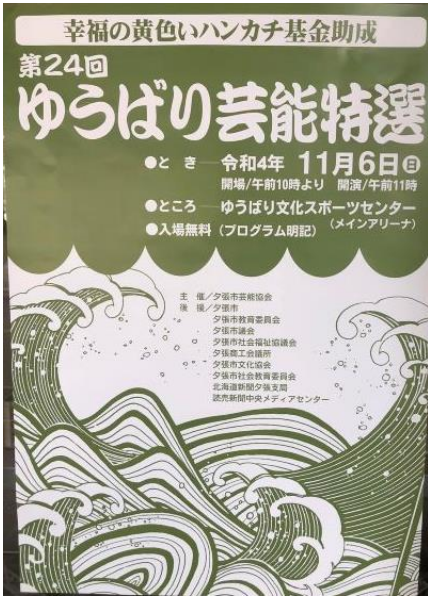


民報 ゆらばり

第24回ゆらばり芸能特選 開催

小学生から90代まで民謡・日舞・歌謡等



自慢の芸能華やかに 4年ぶりの開催に熱気

11月6日(日)、夕張市芸能協会主催の「第24回ゆらばり芸能特選」が文化スポーツセンターメインアリーナで4年ぶりに開催されました。黄色いハンカチ基金の助成事業です。

日舞長謡カラオケの共演

開幕演奏は、夕張太鼓保存会【竜花】による祈願太鼓、男太鼓で迫力のスタート。その後は芸能協会及川会長の挨拶、厚谷市長がお祝いのことばを述べました。



第一部は五條流公都穂会の日本舞踊で大慶の舞、花笠音頭、人恋椿、おはん等。引き続き琴楽会による民謡の披露で、秋田酒屋唄、新さんさ時雨、北海浜節、能

代舟唄、最上川舟歌等。

観峯振興会の民謡は南部牛追唄、黒田節、津軽山唄、常磐節、尾鷲節を。

若梅吉樹会による日舞は、義経、凜として、の2演目。

夕張歌謡連合会のカラオケでは、泣いたら負け、夜明けのブルース、女の酒場、を熱唱しました。

大人も子どもも音色に合わせて

午後からの第二部は、岳風会の詩吟が予定されていましたが都合により取り止めとなりました。

繰り上げて若梅吉樹会と五條会が夕張川、月山、を披露しています。

その後は鷗雅会による民謡、明響歌奏。観月民謡振興会の

秋田大黒舞、シャンシヤン馬道中唄、南部

酒屋もとすり唄、黒田節と続きました。黒照傳会は道南口説節を高らかに。観客も参加。

琴謡会は子ども達も参加してのソーラン節、石狩川流れ節、秋田おぼこ、箱根馬子唄、どさんこ甚句、秋田船方節、秋田酒屋もとすり唄、と華やかに披露。



黒ダイヤばやしで心をひとつに

最終プログラムである黒ダイヤばやしでは、唄、三味線、尺八、太鼓やお囃子で活気が溢れました。

合わせて会派合同の全員参加の踊りも

会場を練り歩き、観客も参加。

馴染みの音色に会場からも手拍子が溢れ、一番の盛り上がりを見せていました。

小学生から90代までの幅広い年齢層で開催された芸能特選、歴史ある夕張の伝統芸能を大切に守っています。

伝統芸能の継承を

参加者からは「現役世代が高齢化しているが、子供たちも自信をもつて発表している姿に元気づけられた」「引き継いで成長してほしい」との声があがっていました。



締めくくりは昔懐かしい「黒ダイヤばやし」の演奏で

SNSのTwitterには、こんな投稿も...。「一度見たかった、ゆらばり芸能特選に行つて来ました。夕張は民謡が盛んな土地とは知っていましたが、何と民謡だけで6団体、ほかに日舞、詩吟もあり、想像をはるかに越える充実の舞台でした。(後略)」

『櫻井あき』さんを囲むつどい 地域の誇りを守っていききたい！



「櫻井あきさんが、南清水沢と清水沢で開催されました。」

と述べ、参加者から熱い声援が寄せられました。櫻井あきさんのしつかりした語り口には、誠実さがにじみ出ていました。

冒頭に、櫻井あきさんが立起するに至った経緯を話し、ついで、来年の市議選にむけた決意を述べました。



つどいの後半は、「松元ヒロ」（元ニュースペーパー）の話を、参加者でユーチューブ視聴しました。あきさんは「夕張市生活支援コーディネートター」として、社会資源をつなぎ、生活支援を担うボランティアを養成する仕事をしています。ふるさと夕張の歴史と文化を大切に、地域の誇りを守って、これからも夕張のために頑張りますので、応援してください」

【つどいのご案内】

日時：11月20(日) 13:30～
場所：紅葉山・新生クラブ
※どなたでも、ぜひ、ご参加ください。

くずさんの 夕張歴史散歩(191)

石炭のはなし (黒い川) ③

本年8月7日付け民報ゆうばりの「夕張歴史散歩」(188)に夕張の川は「黒い川」と書きました。そして9月25日付けの同欄(189)に、黒い川を題材にしてたかひの歌が夕張に拮がったと紹介し、作詞作曲など詳しく知っている方をたずねました。

反響大きく

発行された9月の末頃から、「だいぶ前に聞いたことがある」「シホロカベツ川は夕張の川の名で、大夕張ではない。夕張で歌われたのではないか」「うたごえ運動などで聞いたことがある」とか、意外に多くの反響が寄せられました。しかし、これと言った出どころが不明のままでしたが、10月の末に元炭鉱の共産党支部の支部長から連絡がありました。

出典明らかに



「しんぶん赤旗」の読者から、職場でメーデーの時など良く歌われていたとして「新夕張と共に」という本に出ているのではないか」という話になった、という事でした。早速、調べたところこの本は「新夕張炭鉱労働組合」の閉山時に記念誌として発行されたもので、巻頭の扉の部分にカラー刷りの写真で掲載されていました。(写真紹介) 読むと、作詞が佐々木純一さん、作曲は村田喬さんとあります。佐々木さんは新夕張炭労で結成された「やまびこ合唱団」の責任者であり、村田さんは松島鉱で働く現場の炭鉱夫で閉山時に退職しています。今回、赤旗読者からの一言から疑問が解けたのですが、たかひの歌というのは、何年経つても忘れずに記憶に残っているものと改めて思いました。感謝の一言です。



紙智子 参議院議員

日韓関係の早期正常化に向けて

国際交流が続きました。10月31日と11月1日、日本・EU議員会議が国内で、11月2日と3日、日韓・韓日議員連盟合同総会が、韓国ソウルで開催されました。

日本共産党からは笠井亮衆議院議員(日韓議連幹事)と私が参加。私は女性委員会や社会文化委員会等に出席しました。到着と同時に、梨泰院(イテウォン)で起った事故の犠牲者を追悼する献花場(市庁舎前)へ直行。多くの市民が献花に訪れていました。日本人で犠牲となられた富川さん(根室市)のご家族が来られており、お悔やみの言葉をかけさせていただきました。

女性委員会と社会文化委員会では、私が育った北海道の農家の女性の地位は遅れていたこと、改善したとはいえ、依然として女性の地位向上は遅れており、女性の政治・経済・社会的地位向上に向け、協力推進を図る必要性を発言しました。社会文化委員会では映像文化・若者文化の交流の活性化と、両国の歴史文化の相互理解を深める取組強化が必要であることなども述べました。

総会は北朝鮮によるミサイル発射を強く糾弾、日韓関係の早期正常化を求める共同声明を採択しました。「日韓パートナーシップ宣言」は日韓両国関係を早期に正常化させなければならぬと明記しています。元徴用工や慰安婦問題など、「歴史問題を解決するために、被害を訴える当事者の名誉と尊厳が回復されるように」という実質的な取り組みが求められています。